# 志す宇宙は無限 令和8年度 5月号

発行：楠隼高等学校 宇宙部

## 楠隼高校 宇宙部部長にインタビュー

今年度の宇宙部がどのような方針で活動していくのか、部長に話を聞いた。

「今年度、高校宇宙部の部長を務めることになりました、高校2年の新城孝紀です。今年度の宇宙部は、全学年合計で9名ですが、今後、3年生は受験勉強が優先となるため、1・2年生の4名で活動していきます。少人数ではありますが、それぞれが得意分野を活かしながら役割分担を行い、効率よく作業を進められる体制が整っています。

現在は、11月開催の缶サット大会（自作した模擬人工衛星をドローンを使用して投下し、様々なミッションを実施する大会）に向けて準備を進めており、すでにミッション内容も確定しました。機体の製作や実験にも本格的に取り組み始めており、部員全員が目標に向かって集中して活動しています。私自身、昨年度の活動を振り返ると、特にスケジューリングの面でうまくいかなかったことが大きな反省点として残っています。昨年参加した大会では、やりたいことをすべてやり切れなかったという思いがあり、その悔しさが今の原動力にもなっています。今年度はその経験を活かし、早い段階から計画を立て、先を見据えた活動を心がけていきたいと考えています。

今年度も宇宙部一同、より良い成果を目指して努力していきますので、応援よろしくお願いします。」

## 2026年度文化祭での活動

私たち文化系の部活動にとって、校外の方々に活動内容を最も直接的に見ていただける場は、やはり文化祭である。今年度の文化祭は6月13日（土）に本校で開催され、生徒や保護者だけでなく、地域の皆様にも公開される予定だ。このように幅広い方々に活動を見てもらえる機会は、年間を通しても多くはない。だからこそ、このチャンスを逃さず、宇宙部としての魅力を最大限に伝えたいと考えている。

今年度の文化祭では、宇宙部として2つの「初の試み」に挑戦する。

一つ目は、校庭でのモデルロケット打ち上げを中高合同で行い、「モデルロケットコンテスト」として競技化することだ。これまでもロケット打ち上げは実施してきたが、観客の方々はただロケットが上がる様子を見るだけで、盛り上がりに欠ける場面もあった。そこで今年度は、打ち上げの精度や飛行の安定性などを評価項目として設定し、競技として楽しめる形にすることで、観客の皆様にもドラマや緊張感を共有してもらえるよう工夫した。

2つ目は、校庭で望遠鏡を使った太陽黒点の観察だ。もちろん、直射日光を直接見るのは危険なので、安全な方法で黒点を投影し観察する。中学の理科の教科書にも方法は紹介されているが、実際にどのような仕組みで観察できているのか、詳しく理解している人は多くないと思う。そこで、宇宙部の部員が実演しながら仕組みを解説し、科学的な面白さを体験してもらえるような企画としたい。この活動は、普段は夜にしか天体観察ができない私たちにとって、昼間に望遠鏡を使って行える貴重な実験でもある。

このように、今年度の文化祭では高校宇宙部の力を存分に発揮し、観客の皆様と一緒に盛り上げていく文化祭にしたいと考えている。

## 新入部員の意気込み Ⅱ

今月は、今年度2年生の新入部員となった 白坂颯真 さんに、その意気込みを語ってもらった。

「私が宇宙部に入部した経緯ですが、父親が宇宙関連の仕事をしており、昔から仕事の話(最新の宇宙に関するニュースなど)を聞いていました。そのような環境で成長した私は、徐々に宇宙に対しての興味関心が沸いてきました。そこで、親元を離れた環境で学びたいという気持ちと宇宙への強い興味・関心から楠隼を受験し、入学しました。中学校では、幼少期からやっていた合気道が影響して、同じ武道である弓道部に所属していました。しかし、部活動に対する気持ちが継続せず、結局途中で部活動を辞めてしまいました。その後、部活動はずっと無所属でした。しかし、高校二年生になり、ふとこのまま無所属のままでいいのか？人生において、高校生という貴重なこの時期に何の行動も起こさなくていいのか？と心の中で思うようになりました。いつしか何か部活に入ろうと考えるようになり、ここはいったん初心に戻って宇宙部に入る！ということを決意しました。

宇宙部入部にあたり、部員から入部理由や抱負等を問われる面接を乗り越え、晴れて宇宙部の部員となりました。宇宙部ではひとまず、宇宙に関する知識を吸収しながらプレゼンテーションやポスターの制作、行事等の活動補助を行っていこうと考えています。発表資料を作ることは得意なので、見る人が楽しんで見ることができるようなプレゼン資料を作ることで宇宙部に貢献していきたいと思っています。すでに高校二年生という遅れたスタートになってしまいましたが、全力を尽くして活動していきます。」

## 身近な宇宙

### H3ロケット6号機

JAXAは4月24日、H3ロケット6号機（30形態試験機）を6月10日に種子島宇宙センター大型ロケット発射場から打ち上げると発表した。打ち上げ時間帯は午前9時53分59秒から11時52分46秒までで、予備期間は6月11日から30日。6号機はロケット性能確認用ペイロード「VEP-5」を搭載し、30形態の飛行実証を行うほか、PETREL、STARS-X、BRO-22、VERTECS、HORN-L、HORN-Rの小型衛星6機に軌道投入の機会を提供する。30形態は太陽同期軌道4トン以上の打上げ能力を持ち、打上げ価格の低減を目指す機体で、6号機が初の実証となる。JAXAは8号機の打ち上げ失敗を踏まえ、衛星搭載アダプタの健全性を含めた最終点検を進め、原因究明と後続ミッションの信頼性向上につながる飛行データの取得を狙う。

天気が良ければ、楠隼からも国見の山から上昇していくロケットの姿を見ることができます。

画像：JAXA

**宇宙からのささやき**

**～すべてがうまく成功するか否かはわからない。**

**けれども、世界には何も不可能なことはない。人はただ**

**これを実行する手段を発見しさえすればよいのだ。～**

**ヘルマン・オーベルト**

**ドイツのロケット工学者。ドイツ宇宙旅行協会創立。**

←H3 ロケット 6 号機(30 形態試験機) 1 段実機型タンクステージ燃焼試験の様子。この機体は、2026 年 6 月 10 日に種子島宇宙センターから打ち上げられる。30 形態とは、固体ブースターを搭載しない形態で、大型ロケットでは日本で初めての打ち上げとなる。(画像：JAXA)

より充実した紙面づくりにつなげるため、今月号から壁新聞の読者の皆様へ読者アンケートを取ることになりました。3分ほどで回答できます。いただいたご意見は、今後、壁新聞を執筆する際の参考にさせていただきます。もし、お時間がありましたら、御回答いただけると幸いです。

これからも、楠隼高校宇宙部をよろしくお願いいたします。

アンケートリンク⇩
https://forms.gle/1AWWvqxLeaDd5xA96

⇦アンケートへのQRコード